

# JIS

## 銅線用裸圧着スリーブ

㊦ JIS C 2806 : 2003

(JEMA)

(2008 確認)

平成 15 年 6 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## 日本工業標準調査会標準部会 電気技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	小 田 哲 治	東京大学大学院
(委員)	池 田 久 利	IEC/SB1 委員 (ティーエム・ティアンドディ株式会社)
	石 塚 昶 雄	社団法人日本原子力産業会議
	香 川 利 春	東京工業大学
	亀 井 英 次	電気事業連合会
(交代)	近 藤 良太郎	社団法人日本電機工業会
	坂 下 栄 二	IEC/ACOS 委員 (技術協力安全センター)
	佐 藤 政 博	財団法人電気安全環境研究所
	柴 田 和 男	社団法人日本電機工業会
	高 橋 健 彦	関東学院大学
	高 久 清	独立行政法人産業技術総合研究所
	高 山 太 郎	社団法人日本電線工業会
	千 葉 信 昭	社団法人電池工業会 (株式会社東芝ディスプレイ・部品材料社)
	椿 広 計	筑波大学大学院
	徳 田 正 満	武蔵工業大学
	菱 木 純 子	全国地域婦人団体連絡協議会
	福 田 和 典	社団法人日本配線器具工業会 (東芝ライテック株式会社)
	弓 削 洋 二	社団法人日本電球工業会 (ハリソン東芝ライティング株式会社)

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 49.6.1 改正：平成 15.6.20

官 報 公 示：平成 15.6.20

原 案 作 成 者：社団法人日本電機工業会

(〒100-0014 東京都千代田区永田町 2 丁目 4-15 電機工業会館 TEL 03-3581-4841)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長代理 二瓶 好正)

審議専門委員会：電気技術専門委員会 (委員長 小田 哲治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 標準課情報電気標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

**JIS 規格ご利用者各位**

この規格票には、旧 JIS マーク表示制度による旧 JIS マーク(㊄)が付されており、これは、旧制度に基づき JIS マーク表示の対象として指定された品目であることを示しておりましたが、平成 20 年 10 月 1 日からは新 JIS マーク表示制度となり、指定品目制度は廃止されております。

平成 20 年 10 月 1 日

(財) 日本規格協会

銅線用裸圧着スリーブ

正 誤 票

区分	位置	誤	正		
本体	表 4 項目の欄	正 [(1)~(7)と外観~引張強さ <sup>(8)</sup> の間の縦罫線を取る]			
	付表 3 各部の寸法欄 <i>t</i>	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">0.8 以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	0.8 以上		(0.8 以上の下の横罫線を取る)  <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">0.8 以上</td> </tr> </table>
0.8 以上					
0.8 以上					

平成 16 年 3 月 1 日作成

## 銅線用裸圧着スリーブ

### 正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	7.5	… ,スリーブの表面及び圧着部の断面の…	… ,スリーブの表面及び圧着部の切断面の…
	付表 3 呼び 小 , 参考欄	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     1.6×2 小 ( 1.6 を 2 本圧着 )                      小 (その他の組合せ)                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     1.6×2 小                      小                 </div>
	付表 4 呼び 小 , 参考欄	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     小                      小                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     1.6×2 小                 </div>

平成 15 年 9 月 30 日作成

白 紙

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本電機工業会 (JEMA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS C 2806** : 1991 は改正され、この規格に置き換えられる。

# 目 次

	ページ
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 種類, 記号及び呼び	1
4. 性能	2
4.1 圧着接続性	2
4.2 温度上昇	2
4.3 ヒートサイクル	2
4.4 引張強さ	2
5. 外観, 寸法及びめっき	2
6. 材料及び加工方法	2
6.1 材料	2
6.2 加工方法	2
7. 試験方法	2
7.1 試験条件	2
7.2 外観試験	4
7.3 寸法試験	4
7.4 めっき厚さ試験	4
7.5 圧着接続性試験	4
7.6 温度上昇試験	4
7.7 ヒートサイクル試験	5
7.8 引張強さ試験	5
8. 検査	6
8.1 形式検査	6
8.2 受渡検査	6
9. 製品の呼び方	6
10. 表示	7
10.1 製品表示	7
10.2 包装表示	7
解 説	12



## 銅線用裸圧着スリーブ

## Non-insulated crimp-type sleeves for copper conductors

1. 適用範囲 この規格は、主として機器用配線及び屋内配線に使用する軟銅のより線又は単線の電線相互を接続するために、JIS C 9711（屋内配線用電線接続工具）に規定する接続工具又は裸圧着スリーブの製造業者が指定する接続工具（以下、工具という。）<sup>(1)</sup>を用いて、その電線相互を圧着接続する裸圧着スリーブ（以下、スリーブという。）について規定する。

注<sup>(1)</sup> 直線突合せ用スリーブ及び直線重合せ用スリーブの接続には、裸圧着端子用工具を、終端重合せ用スリーブの接続には、手動片手式のリングスリーブ用工具を用いる。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS B 7507 ノギス  
JIS C 1602 熱電対  
JIS C 3306 ビニルコード  
JIS C 3307 600 V ビニル絶縁電線 (IV)  
JIS C 9711 屋内配線用電線接続工具  
JIS H 3100 銅及び銅合金の板及び条  
JIS H 3300 銅及び銅合金継目無管  
JIS H 8501 めっきの厚さ試験方法  
JIS H 8619 電気すずめっき  
JIS Z 3261 銀ろう  
JIS Z 3264 りん銅ろう  
JIS Z 8703 試験場所の標準状態  
JIS Z 8704 温度測定方法－電気的方法

3. 種類、記号及び呼び 種類、記号及び呼びは、表 1 による。

表 1 種類、記号及び呼び

種類	記号	呼び	適用箇所	適用工具
直線突合せ用スリーブ	B	付表 1 参照	機器内配線用及び屋内配線用	裸圧着端子用
直線重合せ用スリーブ	P	付表 2 参照	機器内配線用及び屋内配線用	裸圧着端子用
終端重合せ用スリーブ <sup>(2)</sup>	E	付表 3 参照	屋内配線のボックス内接続用	リングスリーブ用

注<sup>(2)</sup> 終端重ね合せ用スリーブは、リングスリーブともいう。